

令和7年度 西伊豆町教育委員会第6回定例会議事録

- 1 開催日 令和7年10月14日（火） 午後14時50分から
- 2 場 所 仁科地区津波等避難施設 2階 避難所
- 3 出席者 鈴木秀輝教育長、高橋浩委員（職務代理）、影山やえみ委員、長島宗紀委員
[事務局 朝倉通彰]
- 4 欠席者 眞野有吏委員
- 5 傍聴者 なし

教 育 長：本日の出席者は4名です。過半数に達していますので、ただ今から令和7年度第6回の定例会を開催いたします。

まず、議事録の承認についてですが、令和7年9月17日開催の第5回定例会の議事録については、私と眞野委員が確認し署名いたしましたので、ご承認いただいてもよろしいでしょうか。（委員：全員異議なし）

教 育 長：ありがとうございました。

続きまして、今回の議事録署名委員ですが、影山委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。（影山委員：了解）

教 育 長：ありがとうございました。

それでは、議題に入ります。日程3の協議になります。

「令和8年度 教育委員会関連事業について」を議題とします。

事務局から説明をお願いします。

事務局長：令和8年度の予算編成の時期になってまいりましたので、令和7年度の主要施策を配付した資料に記載してございますが、記載のもの以外にこういったところに予算取りした方がいいんじゃないかというようなところの提案がありましたら、教えて頂ければと思います。昨年の資料をもとに説明していきますけれども、まず、子育て支援関係ということで、ここに挙げられている5項目については、来年度以降も継続をしていきたいというふうに思っております。二つ目の不登校対策関係ですが、教育支援センターの運営ということで、こちらも継続してまいりたいと思いますが、今ですね、全国的に教育支援センターを校内に設置するというような動きもございまして、先日、いじめ問題対策連絡協議会を開催したのですが、その中でも我々としては不登校の子が学校に行けないのに、学校の中に支援センターがあったって行くに行けないだろうっていうような感覚を持っていたんですけど、スクールカウンセラーとしてはそういうふうに一区切りでバサッと切らない方がいいと、別室登校をしている生徒もいるので、逆に言えばその別室が教育支援センターみたいな感じになって、そこに支援員が張り付いていれば、そういう可能性はあるんじゃないかというようなこともおっしゃっていましたので、今後、そういうことも考えていく必要があるのかなというふうには思っています。次の特別支援教育関係ですが、外部から講師を呼んでですね、学校の先生方に講演会を開催したり、言葉の教室といって言葉の遅れとか発音に不安とか

問題があるお子様に対しての支援もしています。あと巡回相談といって、学校とか園の方に相談員に行ってもらって、子供の生活の様子を見ていただいてアドバイスをしてもらったりとか、園だよりに子育てにかかるコラム的なものも載せてもらったりとかしていますので、そういった取組もまた引き続きやっていきたいと思います。次が国際教育の推進ということで、中学生の台湾交流事業を来年度もやりたいと思います。ここについては、今年度は高雄市の方に行っていました、来年度は屏東県の方に行くということで、屏東県と高雄市を1年交代でやっていくという方針で進めてまいりたいというふうに思っています。ALTについては、2名のALTと一人は会計年度任用職員でカリンさんですね。カリンさんを会計年度任用職員として町で雇っているという状況です。みなさん継続してやっていただけるといいますので、まあ、新規というのは今のところないのかなというふうに思っています。それから小学校英語環境充実授業というところ、小学校に限らずですね、園・小・中で授業以外に年間として英語に触れる機会を持ってほしいということで、朝の会だとか、授業が終わった後だとか、そういったところでALTを存分に活用して、なるべく英語を使う機会を増やしてほしいというところで、今、そういった取組をやってもらっています。カリンさんについては、特別免許状というのを今年度取得して県から認められましたので、一人で授業ができたりとか、そういったメリットがありますので、そういうことにも積極的に取り組んでほしいなというふうに思いますし、学校もそういった強みをうまく使ってほしいなというふうに思っています。それから保育・教育環境の整備充実です。複式教員の配置ですが、賀茂小が来年度は複式が二つになりますので、複式補助員をまたもう一人探さなきゃならないというようなことが発生してきます。その他としては、小学校の児童の机椅子の入れ替えを継続してやっていきたいと思います。次に、施設・設備等の整備ということで、今年度は結構工事がありました、来年度については、教育委員会がやろうと思っているのが、西伊豆中学校校舎のトイレ改修工事です。これについては、避難場所になった時にトイレの利用勝手とかですね、多機能トイレを設置することによって、そこを着替えスペースとして利用するとかですね、そういったところも踏まえて整備をしたいなと思っておりますが、これもかなり多額な費用がかかる上にですね、なかなか今、補助金申請しても採択されないんですね。今年度も西伊豆中体育館のトイレの改修工事をやったんですけど、結局採択されないでふるさと納税の基金を充当したというような状況です。というのは、国の補助金もう空調空調ってなっていて、空調の方を積極的に実施していくような流れになっているので、そういったところまでお金は回ってこない現状があります。あとは学校からここをやってくれというような要望が出てくるかもしれませんが、今のところは西伊豆中校舎のトイレの改修を検討しています。次が高校生保護者支援ということで、高校生の通学費助成については引き続きあります。松高生の給付型奨学金についてはですね、継続するかしないかというところで、町長とも協議したんですけども、まあ、松崎高校をなくさないってことを言っていて、途中でやっぱりやめられないよねっていうところで、継続することになりました。この給付型奨学金をもらった子

たちがどういったところに進学しているのかっていうところまで追っかけているのかというようなところもちょっと質問がありましたので、つい先日ですけど、進路とか就学先を回答いただければ回答してくださいというような通知を対象者の保護者宛に送ってありますので、随時回答が来ると思います。次が小学校統合支援ということで、スクールバスの運行管理業務と目的外利用については、継続してやっていきます。このスクールバス運行管理がですね、令和8年度までの3年契約になっていまして、今回の9月議会の決算審査でですね、堤議員からスクールバスにかかっているお金がかなりあるので、外部委託じゃなくて自主運営できないかというようなご意見もいただいてまして、それについては、人がいれば自主運行した方が安いよねっていうのは理解している話なんです。ただ最低3人は雇用しないとシフトを組んで毎日のことなので、例えば一人が今日体調を崩しましたってなるとダメなので、最低でも3人の雇用が必要かつその3人が確保できるかっていうところです。給食運転手を探した時に、申し込みがあった方はみんな70代です。安全面なども考慮しながら考えていきたいなと思っています。中学校統合支援については、中学生の通学援助費もこれも継続です。高校生給付型奨学金、これは先ほどと同じですね。次の特色ある学校づくりの推進事業ということで継続しているんですけども、なかなか予算が使いきれないとかですね、そういった意見を昨年度いただいてまして、教育長とも話をしている中で、無理に使ってもらわなくてもいいので、本当にいらないんだったら今年度見直しを図ろうというところで考えています。次にGIGAスクール構想ですね。一人一台端末の更新が今年度終わりますので、iPadの保守業務っていうのはその分なくなってくると思います。ただiPadを今回廃棄しないで継続して先生方が使いたいというご意見もあるようですので、そこで先生も使っていくとか、あとは売っているところもあるんですよ。ちゃんとデータを消してですよ。消してちゃんとしたところに売るっていうことも考えられますので、そういったことも考えていく必要があるかなと思っています。

次に社会教育関連事業ですが、親子漁師体験事業についても継続してやっていこうというところでございますが、なかなかこれも天候の絡みがありまして、今年は2回延期をしたとかっていうふうに聞いているので、事業者さんも顧客を掴んでいる事業体なので、この事業にあまり左右されるのはっていうご意見もあるようですので、何回延期してダメだったら中止とか、その辺はきっぱりとやっていく必要があるだろうというふうに思っています。それから次の海の体験交流会、これ長泉町、西伊豆町、松崎町合同って書いてあるんですけど、松崎町さんは予算の関係もあって参画できませんでした。結局西伊豆町と長泉町でやったんですけど、これも長泉町さんの工程がなかなか決まらずに、チラシとかですね、そういった打ち合わせが本当に遅くて、もう1ヶ月前もなかったかな。それぐらいに向こうから来て急遽すぐーるで小学生に応募をかけたんですけど、本当に来たのが二人ぐらいだったので、結局職員の子供が参加したというようなちょっと半分やらせみたいな形になっちゃったんで、これは来年度、長泉町さん本気でやるんだったら、もうちょっとしっかりしてくださいというような話

をするのと、わくわく体験村とやってることがちょっと被っているんで、同じことを二つやらなくてもいいんじゃないのっていうのがあるので、その辺もひっくるめて検討していきたいなと思っています。親子林業体験事業は、これまだやってませんが、11月以降に今年度はやるとしています。これについてもバイオマス事業の関係があったので、そういった将来に向けてということで考えた事業なのですが、それもなくなってしまうかもしれませんね、今現在、西伊豆町には林業っていうのもありますよということを実感して、将来担い手として働きたいという子がもしあれば、それはそれでいいことだと思いますので、これはちょっと継続してやっていきたいなと思っています。それから文化芸術大会出場奨励金というのを令和7年度に作りましたが、今のところ実績はありませんけど、これについては予算を確保していきたいと思っています。保健体育関連事業でスポーツ競技会参加奨励金ですが、これはかなり申請してきますね。陸上、野球、サッカー、空手とかですかね。まあ、同じ子は年2回までですけど、年2回まで出してくる子は結構多くてですね、これは来年度も引き続きということになると思います。西伊豆PR冠試合事業というのがベルテックス、東レアローズ、ブルーレヴズとの関係がありますけれども、これについては、英知係長がまちづくり戦略課から仕事を持ってきた事業でございしますが、今までは補助金を使いながらやってきているので、なんとかやれています。来年度も県の補助金を取ってきたいという話をしていましたので、そういった補助金があれば、まあ、やっていいんじゃないのっていう話をしていますけども、なかなか単独費でやるってなるとですね、結構なお金で対象者はやっぱり絞られちゃうんですね。お年寄りはおなかなか行かないですしね。なので、あまりちょっと高額なものをこういうところに使っていると、受益的にちょっと公平性がないんじゃないのって意見も出てくるから、補助があるうちはいいけど、単独費ってなった時は考えた方がいいよって言うてあります。その下のスポーツ事業合宿誘致補助金ですが、これはスポーツ合宿等で町内の宿泊施設に泊まった方々に、最高3,000円の宿泊補助しますよと。ただ、西伊豆町に来てもらって泊まってもらって、合宿じゃなくて、今度は親子とかで来てもらうような、そういったPRの一環でもありますので、これも結構問い合わせがあります。やっぱり関東圏だと思うんですけど、スポーツクラブって夏休みを利用して合宿をやりたいというところで、やはり伊豆半島はそういうのが人気なんだろうと思います。ただ、西伊豆町にはその受け入れる施設が中途半端な運動施設しかない。ですので、松崎のグラウンド、環境改善センター、土肥の球場とかを使ってもいいから、泊まりが西伊豆町内ならいいってしてるんですよ。泊まりが町内だったら町内の経済が潤う。そういう話です。ただ町内にそういう施設があったら、合宿だけで結構来るとしています。これは本当に可能性のあるものでしたけど、残念ながら色々問い合わせはありますが、施設がないというところで、ちょっと残念だなと思います。その他の事業で、園・小・中学校環境美化活動補助金というのがありますが、今までは結構しっかりとPTAが頑張っていて活動したと思うんですけど、最近の補助金申請を見ると30分間の清掃活動で5万円補助していたりするので、これは今年見直す必要があるなと

思ってます。以上になりますが、何か他にこういうところを重点的にやった方がいいんじゃないかっていうのがあればですね、そこも検討してまいりたいと思います。

高橋委員：松崎高校の存続支援。この給付金の奨学金は何人？

事務局長：今年度は新規が二人ですかね。成績がダメになると、高校行ってからストップします。

高橋委員：推進事業だから増やさないかなって思うんだけどな。今いくらだったかな。

事務局長：1年生が月額1万円、2年生になると1万5000円、3年生が2万円です。

金額を上げていくかっていうことも議論に上がりましたがね。結局これも見直す時期に来てるんじゃないかっていう議会からの指摘もありまして、対象のご家庭に聞くとこの制度があったから松崎高校を選んだってわけではないと。お金じゃないってことです。そうするとこれってやってる意味があるのかって話になるんですけど、でも松崎高校存続のためって言うのに、じゃあ辞めるっていうのはどうなんだってところで、継続しますっていう話にはなってますけど。

高橋委員：たかが知れてるからもっと金額を増やして、その推進事業の魅力的なものにはしてもいいと思うしね。この辺も考えながら魅力ある推進事業にどうしたらできるか。あと、もう一つね、特色ある学校づくりって僕いつも思うんだけど、裁量予算になるよね。これ本当に必要なのか。あるいは今先生たちが計画したりと結構な労力だとか時間がかかるからあまりやらない方向に来てるのかなと思うんだけど、働き方改革の中でね。そうすると結局挙げても、今年はちょっとこの要求したけどできませんでしたって増えてくるんじゃないかなと思うんだなあ。

事務局長：両小学校については、今年度から漢検、英検の受験料の補助を始めました。そうやって考えれば使い道はあると思います。逆に中学校は受験対策用の参考書を買って、生徒たちに貸し出しているのかどうか分かりませんが、そういう取り組みはしています。逆に言えば小学校でそういった補助しているんだったら、中学校でもそのうちは補助に当てていいかっていう予算を組んでくれれば、それはそれで僕はいいと思っています。賀茂小なんかは本当にカヌー、サップ、釣り、スノーケリングなどの体験をこの特色予算で取ったりしているので、それこそこの地域でやれることの特色なので、中学生になってもそういうのをやってもらうとかというもいいかと思うので。校長の経営方針というかアイデアで全然予算足りないって言うところも出てくると思うんで、中学になると色々やるが多くなってきて、高橋委員がおっしゃったようにやりきれないのかもしれないですね。まあ、その辺はもういらないってことであれば、予算見直しますから。

長島委員：いいですか。台湾の今度報告会があるそうなんですけど。今年は9人行ったとかという話ですけど、例えば何人中何人だったとか、予算がもう少しあればもっといけるのになとか、その辺の塩梅っていうんですかね。どんな感じなんですかね。できれば経験ね、やっぱりすごく大きいことなので、できるだけいけるなら行かせてあげたいなという事がありまして。どんな感じだったんですか。

事務局長：9人全員ですね。

長島委員：希望者全員。あっ、そういうことですか。じゃあ他の希望はなかったんですか。

事務局長：なかったです。去年は抽選がありましたけどね。今回は10人来ても行けたんで10人だったら受け入れ可能です。ただひと家庭都合が悪くなっちゃったらしくて、受け入れの家庭が二人一緒のところ、一組できちゃいましたけどね。その受け入れ先のダメになった人が親戚関係だったみたいです。でも楽しかったみたいなので。今回は事前に2回勉強会を開いているんですよ。カリンさんが講師で1時間ぐらいの授業を2回、自己紹介とか基本的な挨拶程度のものとかをやっていて、そういうのも多分事前にあったので、コミュニケーションは多分去年より取っているかもしれません。学校受け入れも一緒に授業をやったりとかしているので充実していたと思います。前回は学校って言うても本当にただ座って授業にただでみたいな感じだったので。今年は、教育委員会も校長先生も一緒にその授業の体験をしてもらったようですし、そういう意味では良かったのかなというふうに思いますね。

教 育 長：受け入れるのもできますよっていうのがこちらの家庭でも出てくれば、向こうからは少ない人数でもいいから二人でも三人でも受け入れてもらえたらということもあると思うので、来年募集する時に、去年は一切受け入れはしなくていいですからって言って募集したんだけど、受け入れることも可能ですかという両方を聞いてね。受け入れ可能っていうのがあれば何人か来てもらうような。今年もちょっと保護者のメンバー見てたら、この人たちなら受け入れられるんじゃないかなっていうご家庭がありましたからね。

事務局長：台湾の子は日本語ができる子がいるので、台湾の人たちって基本的に英語喋れちゃうのでこっちが英語喋れれば何も困らないですよ。だけどこっちに来ると迎える側が英語を喋れないので、本人が日本語喋れればあとは全然困ることはないと思いますよ。言葉だけだとおもうんです。なのでその言葉のストレスがなければ、受け入れるよっていう家庭はあると思うんですね。

教 育 長：他に何かご意見、ご質問はございませんか。

本日の議事案件は、すべて終了いたしました。

以上をもって令和7年度第6回の定例会を終了します。皆様、お疲れ様でした。